

239.

## 足柄層群の変形過程

角田史雄 (埼玉大学教養部)

Tectonic Processes of the Ashigara Sedimentary Basin : Funio Tsunoda

上部鮮新-下部更新統・足柄層群の最下部の堂山層は、泥岩層が主体で、かつ、きわめて急激な層厚変化を示す。この層群の最上部は塩沢層で、その上位に駿河礫層・箱根火山噴出物がのる。これらは互いに不整合の関係にある。

足柄層群はその北縁を、従来考えられていた神縄断層より南側(山北町安洞-松田町松田惣領)を通る断層によって区切られ、南縁は南下がりの高角断層で切られる。

その構造形態は、北東翼が北東、西翼が西、南縁が垂直にそれぞれ急傾斜し、頂部の北西-南東方向の軸が20~50度ほど北西に傾いていて、いわゆる「箱型」の褶曲である(図1)。

この構造は、鮮新世末までに、堂山層から畑沢層までの地層が傾動・撓曲した後、初期更新世の不整合の形成・前代までに形成されていた構造への重複変形・塩沢層の堆積をへて、前期更新世に完成した。

